



I 第34週の発生動向 (2026/8/17~2026/8/23)

- 手足口病について、東津軽+青森市保健所管内、中南保健所管内、三戸+八戸市保健所管内及び上北保健所管内で**警報**が継続しています。西北保健所管内の**警報**は**解除**となりました。特に乳幼児が集団生活をしている施設等では、流水・石けんによる手洗いを徹底し、タオルの共用を避け、排泄物等を適切に処理するなど感染予防に努めましょう。
- 水痘について、下北保健所管内の定点当たり報告数が**注意報レベル**となりました。
- 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「ダニ媒介脳炎」です。

最終ページに掲載しています。

II 第34週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

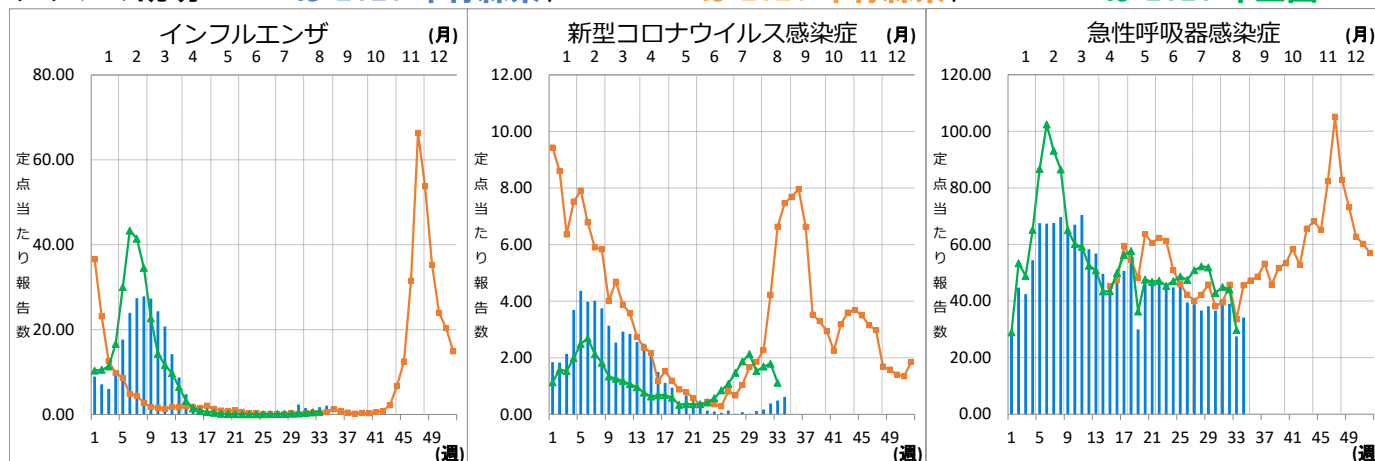
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	48	4.36	16	1.60	7	0.70	15	2.50	14	1.56	8	1.33	108	2.08	21
	新型コロナウイルス感染症	11	1.00	4	0.40			1	0.17	12	1.33	4	0.67	32	0.62	7
	急性呼吸器感染症	472	42.91	236	23.60	274	27.40	171	28.50	286	31.78	338	56.33	1777	34.17	375
小児科	RSウイルス感染症	1	0.17			2	0.29							3	0.09	1
	咽頭結膜熱	1	0.17											1	0.03	-8
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.50	1	0.17	3	0.43	4	0.80	5	0.83			16	0.47	3
	感染性胃腸炎	9	1.50	9	1.50	24	3.43	4	0.80					46	1.35	19
	水痘											5	1.25	5	0.15	1
	手足口病	17	2.83	22	3.67	19	2.71	6	1.20	20	3.33	10	2.50	94	2.76	-70
	伝染性紅斑					3	0.43							3	0.09	3
	突発性発しん	2	0.33			2	0.29	1	0.20	2	0.33			7	0.21	3
	ヘルパンギーナ	8	1.33	2	0.33			10	2.00	4	0.67			24	0.71	-2
	流行性耳下腺炎															0
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)							1	1.00					1	0.17	1
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											5	5.00	5	0.83	3
	無菌性髄膜炎															0

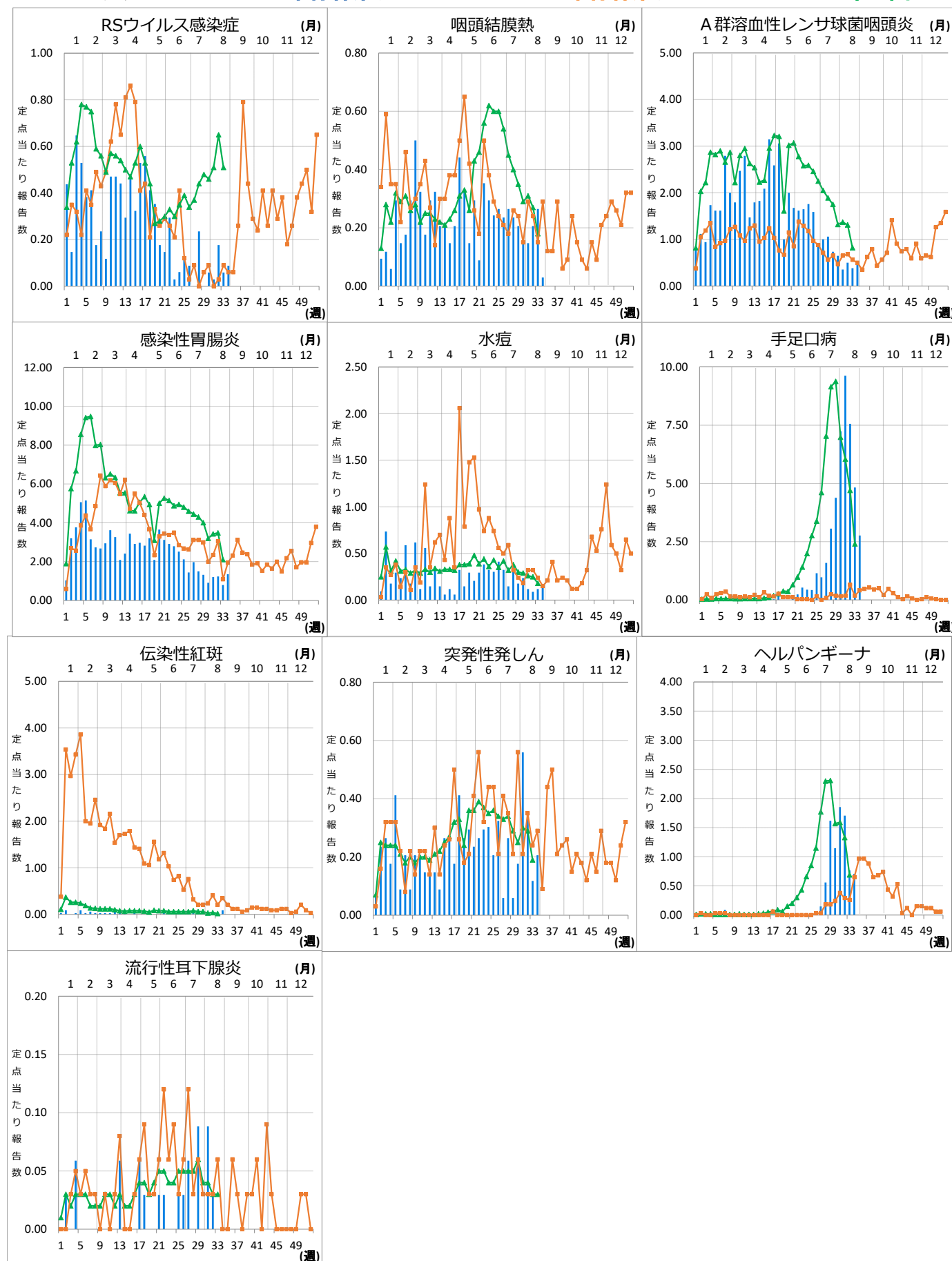
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第34週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〓は2026年青森県、■は2025年青森県、▲は2026年全国



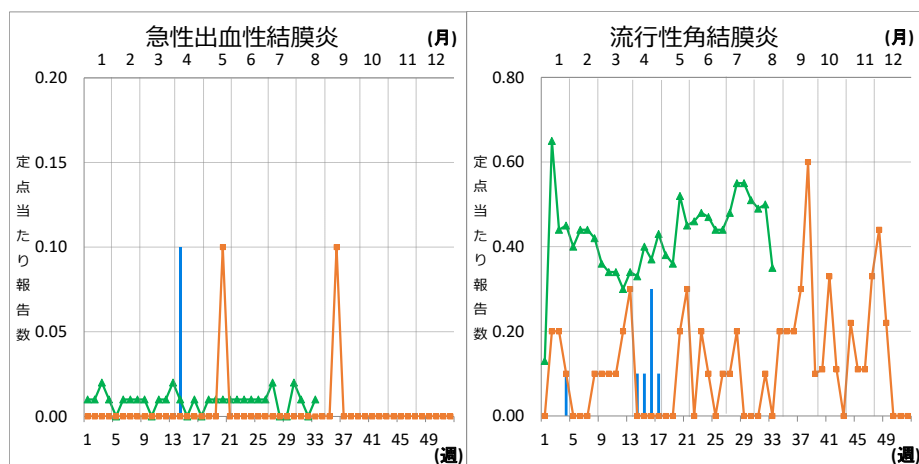
Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026 年第 34 週、ただし全国は前週）

グラフの説明  は 2026 年青森県、 は 2025 年青森県、 は 2026 年全国



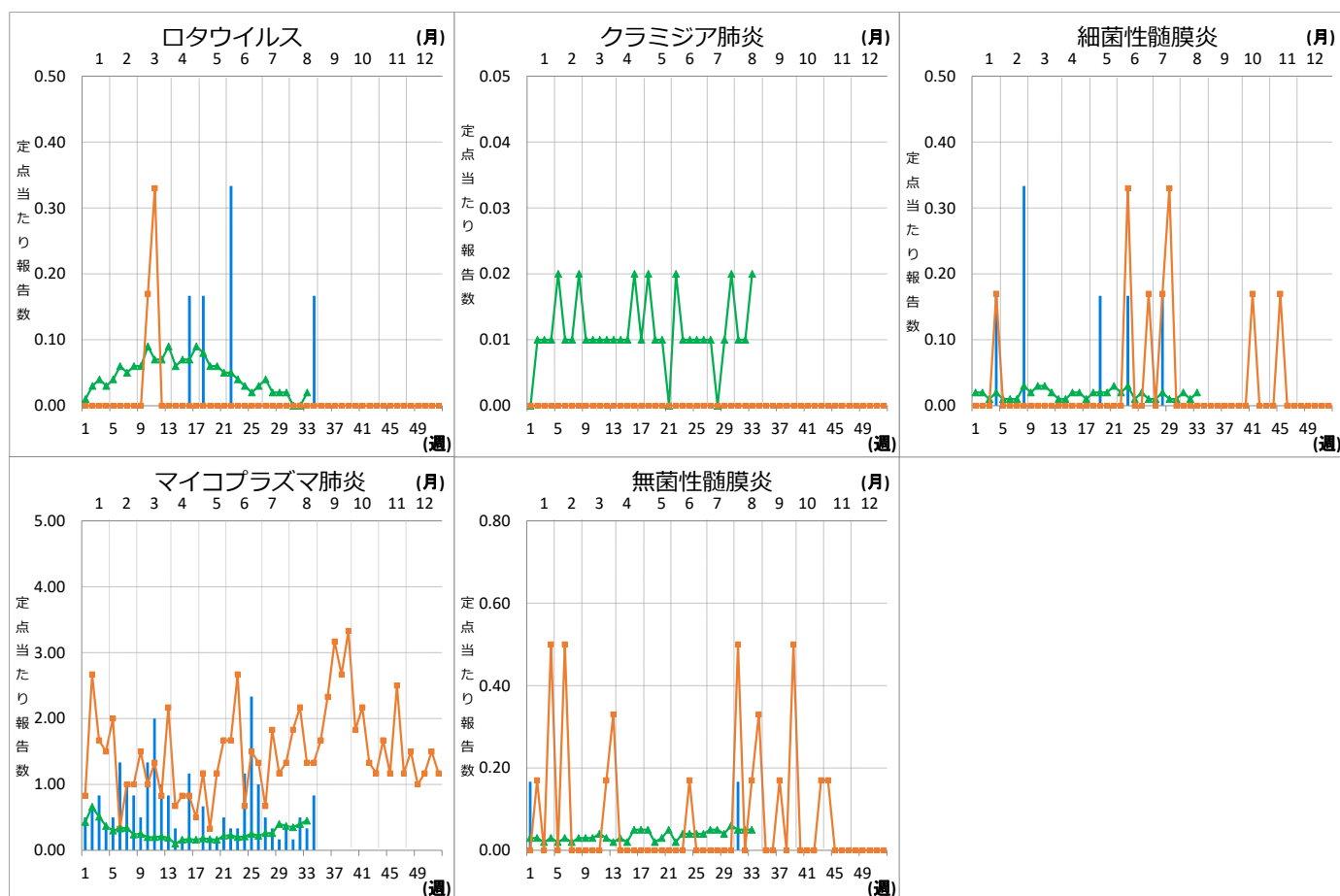
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026 年第 34 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉 —は 2026 年青森県、■—■は 2025 年青森県、▲—▲は 2026 年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026 年第 34 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉 —は 2026 年青森県、■—■は 2025 年青森県、▲—▲は 2026 年全国



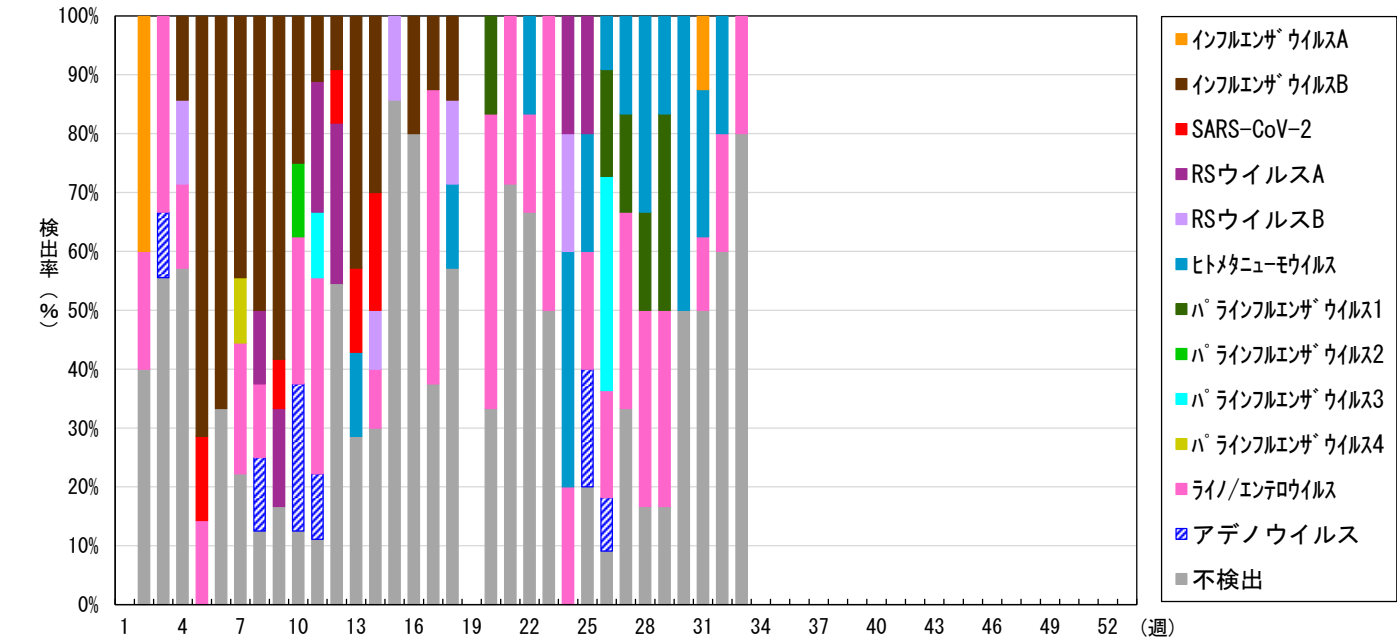
Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026 年第 27 週～34 週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週
提出検体数	6	5	5	6	8	5	6	7
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	1	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	1	2	1	3	2	1	0	
パラインフルエンザウイルス1	1	1	2	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	2	2	2	0	1	1	1	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
不検出	2	1	1	3	4	3	4	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	1	7

※第28週に採取された検体のうち、ヒトメタニューモウイルス及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。
※第29週に採取された検体のうち、ヒトメタニューモウイルス及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026 年第 1 週～33 週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 34 週）

- ・結核（二類感染症）：上北 1 人、下北 2 人（2026 年計： 69 人）
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：中南 1 人、上北 1 人（2026 年計： 27 人）
- ・レジオネラ症（四類感染症）：中南 1 人、八戸市 2 人（2026 年計： 6 人）
- ・アメーバ赤痢（五類感染症）：上北 1 人（2026 年計： 2 人）
- ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（五類感染症）：中南 1 人（2026 年計： 7 人）
- ・百日咳（五類感染症）：中南 1 人（2026 年計： 27 人）

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026 年第 31 週～2026 年第 34 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
31	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 クロイツフェルト・ヤコ ブ病1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人 劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人			腸管出血性大腸菌感 染症1人	結核1人
32	結核1人 梅毒1人	結核1人 劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人 侵襲性インフルエン ザ菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感 染症2人 播種性クリプトコク ス症1人			結核1人
33	結核2人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 侵襲性肺炎球菌感染 症1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人 レジオネラ症1人 侵襲性肺炎球菌感染 症2人				腸管出血性大腸菌感 染症1人
34		腸管出血性大腸菌感 染症1人 レジオネラ症1人 カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 1人 百日咳1人	レジオネラ症2人		結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 アメーバ赤痢1人	結核2人

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第33週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	9200	47	2311	25	11	435	221	14	110	5
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症
累積報告数	4	6	126	1	3	62	64	285	2	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎
累積報告数	30	3	1	1571	5	316	135	620	16	314
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	多剤耐性緑膿菌感染症
累積報告数	5	99	841	592	26	372	39	1853	565	145
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
累積報告数	7209	111	61	53	4065	3	549	10		

青森県（2026年第1週～第34週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	69	2	27	3	3	6	2	7	3	10
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	百日咳			
累積報告数	1	6	15	7	13	1	27			

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

Ⅺ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026 年第 34 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第34週	報告なし		

2026 年報告件数及び発症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月				9月	10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32週	33週	34週	35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0	0	0	0	0	0					15
	発症者数	37	44	69	23	42	0	0	0	0	0	0					215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	1	0	0	0	0	0					13
	発症者数	92	0	30	73	63	10	0	0	0	0	0					268
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0					2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0					38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
計(月別)	件数	7	2	8	5	7	1	0	0								30
	発症者数	149	44	117	96	105	10	0	0								521

感染症の窓

ダニ媒介脳炎は、ダニ媒介脳炎ウイルスを保有するマダニを介して感染するダニ媒介感染症です。いくつかの亜型があり、日本では極東亜型のウイルスが分布しています。

潜伏期間は2～28日で、感染しても70～98%は発症しない不顕性感染とされています。極東亜型のウイルスに感染すると、徐々に頭痛・発熱・悪心・嘔吐等の髄膜炎症状が見られ、さらに脳脊髄炎を発症すると精神錯乱・昏睡・けいれん及び麻痺などの中枢神経症状を呈することがあります。

国内では、主に北海道で患者が報告されていますが、過去に道外での感染があった可能性や、本州で動物が感染した可能性が報告されており、北海道以外でも感染する可能性があることが示唆されています。また、海外渡航中に感染したと推定される患者も報告されています。

予防には、以下のような予防措置を講じて、マダニに刺されないようにすることが重要です。

- ・肌の露出を少なくする（長袖、長ズボン、帽子、手袋等の着用）
- ・明るい色の服を着る（ダニを目視で確認しやすくする）
- ・虫よけ剤を使用する（ディートやイカリジンを含む忌避剤の使用）

また、ペットを介してダニが屋内に持ち込まれることがありますので、ペットが外から帰宅したら、ダニがついていないか確認し、ダニが皮膚に食い込んでいる場合は動物病院で処置を受けましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞ [ダニ媒介脳炎\(厚生労働省 HP\)](#)



ダニ媒介脳炎

**マダニに注意
ダニヤン!!**

自分も確認

**予想ダニしない
場所に潜んでいる
ワン!**

**ペットが感染すると
ヒトに感染する感染症が
あるから
注意ダニヤン!**

【ダニが媒介する感染症】重症熱性血小板減少症候群(SFTS)：ダニ媒介脳炎・日本紅斑熱・つづが虫病・ライム病 など
ダニに刺されないポイント
●肌の露出を少なくする
●明るい色の服を着る
●虫よけ剤を使用する

ペットのダニ対策
●ダニ駆除剤の使用等について獣医師に相談。
●ペットが外から帰宅したらダニがついていないか確認。
●ダニが皮膚に食い込んでいる場合は動物病院へ。
●ペットを介して、屋内外にダニが持ち込まれることがあります。

**ダニ媒介感染症
を予防する**
●外出に外出前・帰国後、虫除け剤(虫除け剤など)で皮膚(ダニの咬傷、虫刺咬など)を塗布しよう。
●ダニに刺された後、虫除け剤は皮膚の炎症に注意をし、発熱等の症状が現れた場合は医療機関で診察を受けてください。

**ダニ媒介感染症
を予防する**
●虫除け剤の行動
●虫除け剤の行動

出典：厚生労働省ホームページ